

令和3年度 宮崎県立小林こすもす支援学校関係者評価書

4段階評価

4 十分満足できる 3 ほぼ満足できる 2 やや物足りない 1 改善を要する

【 総 評 】

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
教育活動	1 児童生徒の実態に即した教育課程の編成と教育計画	項目1の「児童生徒の実態に即した…」は、昨年比+0.2で、コロナ禍における学校での教育活動を児童生徒の実態に即した形で実現できないかと工夫(リモートや代替)を積み上げてきた結果と捉えている。 また、保護者や家庭へのサポートを通してニーズを把握し、学校の様子を発信(学校長による学校通信発行、ホームページブログ「こすもすのつばやき」)することで地域に開かれた教育課程の実現につながると考える。	3	4	・情報発信が積極的に行われ(校長先生のブログ等)、学校の様子をリアルタイムで把握することができた。今後、SNS等も活用するとさらに効果的ではないか。 ・コロナ禍においても様々な工夫(リモート等)で教育活動を展開し、「自分に合った生きる力」を身に付けることにつながったと思われる。 ・小学部児童の増加は、地域への特別支援教育が浸透した結果であると思われる。特別支援学校の地域におけるセンター的役割の充実を今後もすすめ、地域の特別線教育力の向上を目指してほしい。
	2 分掌部や学部間の連携、円滑な校務運営				
	3 生きる力を育くむための教材教具の開発や学習環境の整備				
	4 集団生活への参加、友達と協力する態度や能力の育成				
	5 保護者への教育方針や教育活動の伝達				
	6 好ましい行動の仕方を身につけさせる適切な指導				
	7 児童生徒や保護者・地域社会のニーズに応える教育				
	8 児童生徒理解に立った指導				
連携・支援	9 個別の指導計画、個別の支援計画、移行支援計画を作成し、保護者や関係機関との連携、長期間の見通しをもった支援	2項目で-0.1、1項目で+0.2となった。 -0.1の「学校間交流」については、感染症拡大防止の観点から、直接交流や居住地校交流が制限された結果と思われる。 +0.2で3.2と高い評価となった項目10については、今後も子供の障がいの実態や発達の段階を的確に把握し、指導に活かしていく必要がある。 また、更なる働き方改革を行い、子供と向き合う時間をより一層確保することが大切とも考える。	3	3	・校長便りの発行、ホームページの定期的な更新など、担任だけでなく学校全体として保護者と連携を深めようという姿勢が見られる。 ・児童生徒への直接的な関わりだけでなく、教師が指導、支援の準備をするための時間の確保も行っていく必要がある。 ・学習発表会の場合として動画配信サービスを活用するアイデアは、家族だけでなく、併設校や関係者との連携を深めることができた。
	10 学級通信、連絡帳、懇談などによる保護者への連絡				
	11 共生社会を目指した学校・地域づくりの推進				
	12 障がいや個性に応じた進路・就業支援				
	13 地域センターとしての相談・連携・支援機能の充実				
研修	14 研究や研修を通じての専門的指導力の向上	両項目とも+0.2となった。新学習指導要領に対応した授業作りをテーマに行った研究のまとめとして、職員が各自の授業を見つめ直し、共有できたことが大きい。 次年度は、学校現場においてICT機器をより効率的に活用するための研修及び研究に取り組む予定である。	3	3	・児童生徒と向き合う時間確保のため、簡略できる業務はICT等導入、活用を進めるべき。 ・研修に対する意欲や姿勢を継続するための環境作りが重要である。(教師自身の目標設定や自己評価) ・特別支援教育の専門家として自己研鑽に取り組んでほしい。
	15 職員のニーズに応じた研修、教育間の相互支援				

生活・安全	16	児童生徒の健康な心身、基本的生活習慣の確立	自己評価の平均は 3.0 だが、項目 17 では -0.2 となった。 感染症対策や児童生徒の実態が多様化する中、全学部が集合（対面）しての行事はほとんど実施できず、身近なロールモデルを目の当たりにする機会が減ったことが原因だと思われる。また、医療的ケア対象の児童生徒における緊急時対応シミュレーションも実施しており、今後も更に課題解決に向けて取り組んでいきたい。	3	3	・併設校との危機管理については、今後も連携を深める必要がある。 ・目標を達成するためにどのような方法があるか、考え、試すいい機会になったと思う。 ・安全確保のためのシミュレーションは、様々なケースを想定して実施する必要がある。
	17	交通マナー、社会規範意識等の安全指導の徹底				
	18	安全面に留意した準備や対応				
	19	緊急時対策の整備と対応の充実				
その他	20	諸会議、校内研修、課題研の効果的実施	7 項目中 6 項目で +0.1 ~ +0.5 となった。 大幅増で +0.5 となった項目 22 は、会議の進め方や方法、本校の設置形態（各学部所在地が異なる）にあった決裁方法（ICT を活用）など、工夫や取組みを一つ一つ積み重ねた結果、職員が実感できるレベルに達したものだと考えられる。 項目 25 に関しては、昨年比 +0.2 ではあったが、全項目を通じて最も低い評価となった。原因は、小学部の教室数不足や送迎時の駐車場不足だと思われる。小学部の一部を高等部に移すことについては、多くのメリットも見込まれる。保護者はもちろん、職員についても丁寧な説明を行い、高い次元での共通理解を目指したい。	3	3	・今後も児童生徒の実態、ニーズが多様化し、在籍数の増加が予想される。ハード面の課題は継続して改善が必要である。安心安全な環境で学校生活を送れるよう更なる配慮が必要である。 ・様々な取組で得られたメリットを共有し、一つでも多くの改善につなげることが重要である。 ・「児童生徒は登校を楽しみにしている」が高評価であることは、日頃の教育活動の現れ。今後も維持してほしい。
	21	児童生徒や職員の人権保護				
	22	会議の精選、時間短縮、事務処理の軽減化				
	23	児童生徒は登校を楽しみにしているか				
	24	P T A 活動の活性化、保護者の積極的参加				
	25	施設・設備等、快適で安全な教育環境				
26	個人情報の管理、必要な情報の提供					
1 本年度の取組について…「校訓」に関する事項 <なかよく>「互いに助け合う豊かな心の育成」 ・十分な感染症対策を行いながら、東方小学校・中学校、小林高等学校との間接的な交流や居住地校交流を通じて、相手を思いやる豊かな心の育成につながった。 ・コンプライアンス研修や ICT 活用に向けた演習等に積極的に取り組み、服務規律の遵守や危機管理体制、効率的な業務推進を図った。 <たくましく>「自立に向け主体的に生きる力の育成」 ・十分な感染症対策を行いながら、スポーツや文化活動、芸術活動に取り組んだ。 <夢にはばたく>「キャリア教育の充実と、家庭や地域と連携し、地域に開かれた学校の実現」 ・キャリア教育の視点から、中学部の進路体験学習、高等部の産業現場等における実習を通して、卒業後を見据えた指導や支援に努めた。また、コーディネーター主催の教育相談及び進路相談、保護者を交えたケース会議等を実施することができた。 2 次年度へ向けて ○本校の特色を活かした教育に ICT を活用し、より充実した活動を展開しながら、保護者や地域に本校の強みを発信していく。 ○本校の課題であるバリアフリー化や教室不足等施設設備面での課題解決を目指しながら、環境整備に努める。 ○東方小・中学校、小林高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流の活動内容や方法を見直し、学習内容の充実を図る。 ○災害時緊急時対応訓練及び児童生徒保護者引き渡し訓練、併設校との合同訓練をより実際に即して実施し、危機管理体制の強化を図る。						